

小坂発展会/豊田市商業連合（協） 活性化計画【計画期間R3年度～R6年度】

1 現状と課題の分析

①地域概況	小坂発展会は愛知環状鉄道新豊田駅の西側に位置する非常に広範囲な発展会である。発展会の区域内には、産業文化センター、美術館、市民文化会館等の公共文化施設や毘森公園があり、文化と緑を感じることのできる地域である。			
②最寄り駅	名鉄 豊田市駅 愛知環状鉄道 新豊田駅	③最寄り駅からの距離	300m	
④商店街区域	豊田市小坂自治区に準じる（小坂本町・小坂町・三軒町・神田町・朝日町の各一部）			
⑤商店街区域内の商店数	不明（区域が広いため調査不可能）			
⑥うち組合加入店舗数	90	⑦うち空き店舗数	4	
⑧商店街の加入店舗構成	生鮮三品（ 0店 0%）、衣料品（ 2店 20%）、その他小売り（ 8店 80%）			
	飲食店（ 43店 48%）、サービス（ 24店 27%）、小売・卸（ 10店 11%）、その他（ 13店 14%）			
⑨商店街の特徴、強み	①直近15年未満に加入した店舗が全体の40%以上を占め、新しい店舗が多い。 ②新しい店舗のほとんどが飲食店で、飲食業が全体の50%を占めている。 ③恒例の「夏祭り」など自治区と共催のイベントを開催し、地域との結びつきが強い。 ④第1期活性化計画でスタートした「とよた小坂食べ歩き飲み歩き」は、顧客・会員の双方に大好評で、小坂発展会の定期イベントとして定着している。			
⑩来街者 (主なもの一つに○)	高齢者		主婦	ファミリー
	○ 若者		観光客	○ その他(美術館の企画展等の周辺イベント参加者)
⑪来街者交通手段 (主なもの一つに○)	徒歩		自転車	バス
	自家用車	○	鉄道	その他()
⑫来街者の来街に要する時間 (主なもの一つに○)	15分未満	○	15分以上30分未満	30分以上1時間未満
	1時間以上			
⑬商店街等が抱える課題・問題点	①会員の店舗が広域に点在しておりゾーンを形成していないため、発展会全体での共同販売は取組みにくい。 ②15年未満に加入した店舗が増加し、会員の年齢構成も若いですが、逆に、昔からの地場の店舗や店主が減少傾向にある。近年加入した若い店主らをいかに発展会活動に巻き込んでいくかが今後の課題である。 ③自治区と共催の「夏祭り」は例年地域住民に好評だが、共催のため発展会としてのPR力が弱い。 ④夏祭り及び食べ歩き飲み歩き事業は例年多くの方に足を運んでいただいているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染防止のためほとんどを開催することができなかった。コロナウイルスとの共存を前提としたイベントの開催方法を構築する必要がある。			
⑭地域住民ニーズ	夏祭りでは、子供さんが飲食・娯楽を楽しめ、家族で参加しやすい夜店が求められている。			

2 商店街の目指す将来像及び目標

①商店街の目指す将来像	①「にぎわいづくり」、「安心・快適・便利な発展会環境づくり」の会員ニーズに基づき、小さなアイデア・小さな取組みの積み重ねにより、活性化を目指す。 ②地域に貢献する発展会として、発展会内外とのコミュニケーションを強化し、活性化を目指す。
②基本目標 (4年後の達成目標数値)	会員数の維持 (R3 : 90店舗⇒R4 : 91店舗⇒R5 : 91店舗⇒R6 : 92店舗)

3 4 年間の事業計画 ※事業ごとに作成すること

作成日 R3年 4月 1日

①事業名	小坂納涼夏祭り
②実施予定時期	令和3年 4月 ~ 令和7年 3月
③具体的内容	<p>①毎年1回、小坂区と共催で開催する盆踊り大会</p> <p>②発展会PRチラシや発展会マップなどを配布したり、抽選会の景品を会員店の協賛品にするように努め、地域住民の会員店舗に対する認知度を高める。</p> <p>③「キッズ縁日コーナー」などにより、楽しくて魅力のある夜店作りと出店数の充実を図る。</p> <p>④会員の店舗名を記載した看板や、まつり協賛店の紹介看板を設置し、認知度を高める。</p>
④必要性・目的	<p>① 地域に貢献する発展会として、自治区と連携した行事に積極的に参画する。</p> <p>② 地域住民に、遊びや憩いの場を提供し、地域との結びつきを強化する。</p> <p>③ 新しく転入されたアパート、マンションのご家族にも、小坂を心のふるさととしてほしい。</p>
⑤ターゲット・コンセプト	小坂自治区の全ての住民、家族 約2,900世帯
⑥事業費・採算性の説明	<p>【事業費】 1,700,000円</p> <p>【採算性】 小坂区住民及び区外からの参加者を含め、2500人の集客効果及び新規顧客の開拓</p>
⑦新規取組内容、改善点（先導性、先進性、モデル性等）	・食中毒や熱中症等の夏場に想定されるリスク及び新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、屋台での接客等にあたるスタッフを事前に指定するなどの対策をとり、安心安全な祭りを開催する。
⑧事業効果	事業の安全性を確保するとともに、夜店出店会員の参画を増やすことで、イベント後の来街者、店の増加に繋げる。
⑨目標評価指標測定手法	発展会員の参加店舗数を増やし認知度アップを図る
⑩推進体制	<p>① 発展会役員と会員店の協力スタッフによる「夏祭り実行委員会」</p> <p>② 飲食店会員を中心とした夜店出店会員</p>
⑪関連計画や事業（地域の動き等）	小坂自治区との共催事業 小坂区女性会や環境委員と連携して実行

4 計画期間の事業スケジュール

	3年度【1年目】	4年度【2年目】	5年度【3年目】	6年度【4年目】
事業	5月～準備会議 8月～実施 9月～結果分析	5月～準備会議 8月～実施 9月～結果分析	5月～準備会議 8月～実施 9月～結果分析	5月～準備会議 8月～実施 9月～結果分析
予算（千円）	1,700千円	1,700千円	1,700千円	1,700千円
関連計画や事業	小坂自治区との共催事業	小坂自治区との共催事業	小坂自治区との共催事業	小坂自治区との共催事業
目標達成状況	会員店による夜店出店数 6店	会員店による夜店出店数 7店	会員店による夜店出店数 8店	会員店による夜店出店数 9店

3 4カ年の事業計画 ※事業ごとに作成すること

作成日 R3年 4月 1日

①事業名	とよた小坂 食べ歩き 飲み歩き
②実施予定時期	令和3年 4月 ~ 令和7年 3月
③具体的内容	<ul style="list-style-type: none"> ① 5枚1セットのチケットを前売券3500円、当日券4000円で参加店、協力店、豊田商工会議所及びネットにて販売。 ② チケット購入者は、参加店で1店1チケット(例外あり)にてサービスを受けることができる。 ③ 特設テントで、抽選にて食事券等が当たる「アンケート」の実施。 ④ 特設テントで、1チケットで購入できる物品の販売。 ⑤ 未使用チケットは、発展会会員の店舗で金券として使用できる(期間限定)。 ⑥ ホームページ、スマホサイトを作成し、主催者側から情報を発信する。
④必要性・目的	<ul style="list-style-type: none"> ① 飲食イベントの集客を利用し、発展会の名入りのハッピーのぼりを活用して、小坂発展会全体の認知度アップを目指し、会員店へのリピーター増加を目指す。 ② 飲食以外の業種との連携も検討し、小坂地区と小坂発展会の一層の認知度アップを目指す。
⑤ターゲット・コンセプト	小坂区民、豊田市民に限らず、市外からの来街者を含め1,300名以上の参加者
⑥事業費・採算性の説明	<p>【事業費】 1,700,000円</p> <p>【採算性】 小坂区民・豊田市住民を中心に、1,300人(2日間)以上の集客効果及び新規顧客の開拓</p>
⑦新規取組内容、改善点(先導性、先進性、モデル性等)	<ul style="list-style-type: none"> ① 参加店のメニューを見直し、イベント常連客にも飽きずに参加してもらえるように工夫する。 ② 新たに、小坂発展会会員店以外にも近隣エリア飲食店の協賛出店を認め、参加店数の増加を目指す。 ③新型コロナウイルス感染防止対策や、参加者の利便性向上のため、本部テントの場所を見直す(新とよパーク)、参加者の氏名・電話番号を把握する等の対策をとる。 ④参加者の感染防止、利便性向上及びイベント運営の効率化のため、ネット申込みをさらに拡充する。
⑨目標 評価指標 測定手法	<p>評価指標 チケットの販売数(来客数)</p> <p>目標値 参加店23店舗以上・物品販売5店舗以上・チケット販売1,300枚以上・参加店全体の平日来客数の5倍以上の集客をめざす。</p> <p>測定手法 チケット販売数及びチケットの利用数</p>
⑩推進体制	発展会役員を中心とする「小坂飲食イベント実行委員会」(仮称)
⑪関連計画や事業(地域の動き等)	

4 計画期間の事業スケジュール

	3年度【1年目】	4年度【2年目】	5年度【3年目】	6年度【4年目】
事業	年2回開催 5月Vol.17 / 11月Vol.18	年2回開催 5月Vol.19 / 11月Vol.20	年2回開催 5月Vol.21 / 11月Vol.22	年2回開催 5月Vol.23 / 11月Vol.24
予算(千円)	1,700千円	1,700千円	1,700千円	1,700千円
関連計画や事業				
目標達成状況	チケット販売1,000枚 参加店 20店	チケット販売1,100枚 参加店 21店	チケット販売1,200枚 参加店 22店	チケット販売1,300枚 参加店 23店

3 4カ年の事業計画 ※事業ごとに作成すること

作成日 R3年 4月 1日

①事業名	【新規事業】小坂発展会感謝祭
②実施予定時期	令和3年 4月 ~ 令和7年 3月
③具体的内容	普段商店街を利用している小坂区民を主に対象にした飲食イベント。 屋外の会場（新とよパーク）に屋台及びテーブル・椅子等を設置し、コロナ禍でも安心して飲食ができるスペースを設ける。
④必要性・目的	前期活性化計画の最終年度である令和2年度は、コロナ禍のためほとんどのイベントを開催することができなかった。今期活性化計画でも前期までと同じイベントを継続事業として挙げているが、感染拡大状況によっては開催可否が判断できないのが現状である。その中で、屋外での開催、開催日の設定の柔軟化など、状況に合わせて開催できる新たなイベントを構築することによって、商店街の活性化を図る。
⑤ターゲット・コンセプト	小坂区民を中心として、普段小坂発展会を利用している人。 コロナ禍でも発展会が存続できていることに対する感謝の気持ちを伝えるイベント。
⑥事業費・採算性の説明	【事業費】1,000,000円 【採算性】感謝祭を開催することで顧客の利用頻度を増やす。発展会のファンを増やす。
⑦新規取組内容、改善点（先導性、先進性、モデル性等）	コロナ禍であることに考慮したイベント内容とする。 屋外で開催し、その他発展会イベントと比較して規模を縮小することで、開催日の変更やイベント内容の見直し等にも柔軟に対応できるイベントとする。
⑧事業効果	発展会のファンを増やし、顧客の来街頻度を増やすことで会員店舗の売り上げアップにつながる。発展会が活性化することで新規会員獲得につながる。
⑨目標 評価指標 測定手法	評価指標 会員店による屋台出店数 目標値 20店以上
⑩推進体制	発展会役員を中心とする「小坂感謝祭実行委員会」(仮称)
⑪関連計画や事業 (地域の動き等)	

4 計画期間の事業スケジュール

	3年度【1年目】	4年度【2年目】	5年度【3年目】	6年度【4年目】
事業	年1回開催	年2回開催	年2回開催	年2回開催
予算（千円）	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円
関連計画や事業				
目標達成状況	会員店による屋台出店数 17店	会員店による屋台出店数 18店	会員店による屋台出店数 19店	会員店による屋台出店数 20店

3 4カ年の事業計画 ※事業ごとに作成すること

作成日 R3年 4月 1日

①事業名	情報発信事業
②実施予定時期	令和3年 4月 ~ 令和7年 3月
③具体的内容	既存の発展会ホームページ(HP)のリニューアル スマホ対応のホームページ、facebook等を中心としたSNSによる情報の発信
④必要性・目的	ホームページを作成し、発展会事業の「見える化」と迅速な情報発信をすすめる。 会員店の営業に活かすとともに、地域住民を含めた発展会内外とのコミュニケーションに活かす。
⑤ターゲット・コンセプト	小坂区民、豊田市民に限らず、市外からの来街者の増加
⑥事業費・採算性の説明	【事業費】 ホームページ 500,000円 【採算性】 既存の会員店、新入会会員店の紹介、イベントの迅速な告知・参加者募集に活用するとともに、地域住民を含めた発展会内外のコミュニケーションに活かす。 検索上位に位置するよう絶えず更新し、消費者の利便性を高め、アクセス数のアップをめざす。 コロナ収束後は、インバウンド利用者、多言語化に対応できるよう、更新していく。
⑦新規取組内容、改善点(先導性、先進性、モデル性等)	① 現在、飲食イベント「とよた小坂食歩き」で、スマホサイトを作成し、facebookと連携しているが、新たに発展会のHPを制作することで常時、発展会事業の全体を包括的に発信することができる。 ②消費者向けの情報発信だけでなく、会員向けの情報発信もできるプラットフォームの役割を追加する
⑧事業効果	迅速で広域的な情報発信をすることにより、小坂発展会の知名度を高め、新規顧客の獲得、イベントへの集客につなげる。
⑨目標 評価指標 測定手法	アクセス数のアップ、ページビューのアップ
⑩推進体制	発展会役員、若手会員を中心とした「IT委員会」(仮称)
⑪関連計画や事業 (地域の動き等)	

4 計画期間の事業スケジュール

	3年度【1年目】	4年度【2年目】	5年度【3年目】	6年度【4年目】
事業	既存HPの運用	HPの設計 7月～運用開始	・4月～本格運用 維持管理・更新	4月～本格運用 維持管理・更新
予算(千円)		HPリニューアル費 500千円		
関連計画や事業				
目標達成状況	HPアクセス数 1,000	HPアクセス数 1,000	・HPアクセス数 1,000	HPアクセス数 1,000

5 創業出店促進事業における不足等業種

① 当商店街（商工会）が掲げる不足等業種

- ・ 喫茶店／カフェ
-

② 上記業種を不足等業種として掲げた理由（簡潔に）

・小坂発展会は飲食店がおよそ会員の半数を占めているが、ゆっくり寛いで過せるようなカフェは1軒しかなく、また1人当たりの小坂発展会での滞在時間が短いため。

③ その他参考情報等